



2020年4月30日

2020年度 第1四半期 決算レポート

ハイライト（対2019年度 第1四半期）

- ・ 売上収益は2.8%増の5,196億円
- ・ 為替一定調整後営業利益は、14.0%増の1,582億円
- ・ 財務報告ベースの調整後営業利益は、5.8%増の1,469億円
- ・ 営業利益は、29.4%減の1,290億円
- ・ 親会社の所有者に帰属する四半期利益は、28.5%減の864億円

財務数値の詳細については P.13「データシート」を参照ください

代表取締役社長 寺島 正道 CEO コメント:

新型コロナウイルスは私たちの生活に類を見ない影響を及ぼしています。様々なかたちで痛みや苦しみを抱えている方々に心よりお見舞い申し上げます。また、この困難な状況において、社会機能の維持にご尽力いただいている世界中の関係者の方々、我々の事業継続に取り組んでくれる従業員、ご協力くださっている取引先の皆様に感謝いたします。JTグループは、この危機の拡大当初から、従業員とその家族、そして全てのステークホルダーの安全を最優先するとともに、お客様や取引先の皆様へのご不便を軽減できるようあらゆる対策を講じています。コミュニティの一員として、地域社会がこの難局を乗り越えることができるよう、引き続きJTグループとしてできる限りの貢献をまいります。

第1四半期全社実績は、海外たばこ事業において、前年同期と比べ顕著なプライシング効果が現れ、成長率が非常に高い水準となったことから、力強いものとなりました。なお、今四半期において当社グループの業績への新型コロナウイルス感染拡大の影響は限定的なものでした。

2020年の業績見通しにつきましては、現段階では見直しを行わず、新型コロナウイルス感染拡大の影響が本格化している4月以降の状況、及び為替動向を踏まえうえて事業・財務へのインパクトを精査してまいります。

投資家説明会

投資家説明会（電話会議）は、2020年4月30日、東京時間 17時00分より日本語のみで行います。

投資家説明会資料等については、JTウェブサイトからご覧になれます。<https://www.jti.co.jp/investors/index.html>

新型コロナウイルス感染拡大による影響について

1. 事業運営の状況及び事業継続計画

従業員とその家族、当社事業に係るステークホルダーの安全を最優先としつつ、各国政府の方針、指示の下、対応を行っております。具体的には、事業継続の観点から必要となる業務を除き、原則在宅勤務とするとともに出張の禁止等の措置を取っております。現時点においては、事業継続に大きな懸念はありませんが、今後も事業継続を確実なものにすべく、必要に応じてグループ外のサプライチェーンへの支援も実施しております。また、製造拠点や営業拠点といった事業所において罹患者が確認された際には、当局の指示に従い、当該罹患者との濃厚接触者に該当する従業員の出勤を停止するとともに、拠点内の消毒等適切な対応を行った後に営業を再開するという事業継続計画を策定しております。各事業における事業運営の状況は以下の通りです。

国内たばこ事業

国内 4 か所にあるたばこ製造工場については、手洗い・消毒の徹底に加え、マスク着用の義務化、入社・退勤時の体温・体調確認の実施といった体制のもと、いずれも稼働しております。加えて、流通網、主要な販売チャネルも通常通り稼働していることから、現時点においてたばこ製品の供給に問題は生じておりません。また、製品在庫については、紙巻たばこ、RRP 製品ともに約 2 か月分を保有しております。なお、営業活動やプロモーション活動についても各自治体における要請を踏まえ、緊急性、重要性を勘案した上で自粛する等、適切に対応しております。

海外たばこ事業

海外たばこ事業においては、各国政府の方針・指示の下、一部事業所の一時的な閉鎖等の対応を行っておりますが、現時点において事業継続に関する大きな問題は発生しておりません。なお市場によって大きく異なるものの、各市場平均で 2 か月程度の水準にて製品在庫を保有しております。流通状況につきましては、各地域によって対応は異なりますが、デジタル活用などを通じ、製品供給への影響を最小化するための策を講じております。

医薬事業

医薬品の研究開発につきましては、一部の臨床試験において、医療施設の休業等により進捗に影響が出ているものの、現時点では大きな問題は発生しておりません。医薬品の製造を行っている佐倉工場および製造委託先工場は引き続き稼働しており、現時点において医薬品の供給に問題は生じておりません。また、製品在庫については JT グループ内及び製造委託先、物流倉庫で十分に保有しております。

加工食品事業

日本国内においては、各自治体による外出自粛要請後、一部商品において需給が逼迫した状態となりましたが、これは一時的なものであり、現時点では製品供給に大きな問題は生じておりません。日本国内にある当社グループの工場につきましては、手洗い・消毒の徹底に加え、マスク着用の義務化、入社・退勤時の体温・体調確認の実施といった体制のもと、いずれも稼働しております。在中国の製造拠点においては、行政の指示に従い一時稼働を停止しておりましたが、現在は再開しております。中国以外の海外製造拠点についても、行政の指示に従い適切に対応してまいります。

2. 現時点での事業パフォーマンスへの影響について

現時点における各事業のパフォーマンスへの影響については以下の通りです。これまでのところ顕在化している大きなリスクはありません。なお、たばこ事業において、旅行者数の減少により免税販売が大きく減少しておりますが、当該ビジネスの規模は当社グループ売上収益の3%未満です。

国内たばこ事業

第1四半期におけるたばこ総需要は想定範囲内で推移しています。一方、外出自粛要請が始まった3月以降の総需要動向は、2月までに比べやや弱含んで推移しています。

海外たばこ事業

第1四半期については、各市場のロックダウンに先立ち行われた流通での一時的な在庫の積み増しに加え、国境の閉鎖が不法取引の減少につながるなど、ポジティブに作用した面もあり、堅調な数量実績及びシェアトレンドが確認されました。一方で、一部市場で発令されている移動制限に伴う出荷停滞などを確認しておりますが、これまでのところ全体的な需要動向について大きな変化は確認しておりません。

医薬事業

現時点で、販売・需要動向への大きな影響はありません。

加工食品事業

外出自粛要請に伴い、冷食常温事業における家庭用商品の販売は好調に推移する一方、冷食常温・調味料事業における外食向けの商品、ベーカリー事業の販売は低調となっております。なお、4月の緊急事態宣言の発令以降、外食向けの商品の更なる需要減も確認しております。

3. 財務影響及び今後の見通し

新型コロナウイルス感染拡大による財務影響は、第1四半期においては限定的な水準にとどまりました。一方、たばこ事業における免税販売の減少影響が避けられないことに加え、短期的・長期的な需要動向への影響は不透明な状況であることから、引き続き事業・財務への影響を精査してまいります。

なお、現時点において事業活動に必要な資金の調達に問題はありません。また、コミットメントラインの未使用枠も十分有しておりますが、不測の事態に備え、CPの発行等を通じた手元資金の増強を行っています。

今後、業績見通しに大きな影響を与える事象を確認した際には速やかにお知らせいたします。

2020年度 第1四半期 全社及び事業別実績

全社実績

(億円)	2019年 1-3月	2020年 1-3月	増減率
売上収益	5,054	5,196	+2.8%
調整後営業利益	1,388	1,469	+5.8%
営業利益	1,826	1,290	-29.4%
四半期利益*	1,208	864	-28.5%
*親会社所有者帰属			
為替一定ベース 調整後営業利益	1,388	1,582	+14.0%

2020年 1-3月

● 売上収益

国内たばこ事業・医薬事業での減収を海外たばこ事業・加工食品事業での増収が上回り、前年同期比 2.8%増収の 5,196 億円となりました。

● 調整後営業利益

為替一定ベースの調整後営業利益は、海外たばこ事業・医薬事業・加工食品事業での増加が、国内たばこ事業での減少を上回り、前年同期比 14.0%増となりました。なお、海外たばこ事業においては、前年同期と比べ顕著なプライシング効果が現れ、成長率が非常に高い水準となっております。財務報告ベースでは、海外たばこ事業においてネガティブな為替影響を受けたものの、前年同期比 5.8%増の 1,469 億円となりました。

● 営業利益

調整後営業利益は増加したものの、2019年度に発生した医薬の一時金収入がなくなったことを主因に、前年同期比 29.4%減益の 1,290 億円となりました。

● 親会社の所有者に帰属する四半期利益

税引前利益の減少に伴う法人所得税費用の減少等はあるものの、営業利益の減益に加え、為替差損の増加に伴う金融損益の悪化により、前年同期比 28.5%減益の 864 億円となりました。

事業別実績

海外たばこ事業

(億本、億円)	2019年 1-3月	2020年 1-3月	増減率
総販売数量	1,047	1,041	-0.6%
GFB 販売数量	644	675	+4.8%
自社たばこ製品売上収益	2,868	3,120	+8.8%
調整後営業利益	892	1,041	+16.7%

参考：ドルベース（百万ドル）

自社たばこ製品売上収益	2,602	2,866	+10.2% (+14.1%)*
調整後営業利益	809	956	+18.1% (+29.4%)*

*為替一定ドルベース 対前年同期増減率

2020年1-3月

● 販売数量及び市場シェア¹

総販売数量は、複数市場での総需要減少があったものの、新型コロナウイルス感染拡大に伴うロックダウンに備えるため、流通在庫調整影響がポジティブに働いたことにより、前年同期比 0.6%の減少となりました。流通在庫調整影響を除いた総販売数量は、新型コロナウイルス感染拡大に伴う旅行者数の減少により、免税販売が減少した影響を受け、前年同期比 2.4%減となっています。市場シェアについてはカナダ・フランス・ドイツ・イラン・イタリア・カザフスタン・マレーシア・ルーマニア・スペイン・台湾・トルコ・英国といった市場で引き続き伸長を確認しています。GFB 販売数量は、ウinston（+5.7%）・キャメル（+3.4%）・LD（+5.9%）の力強いパフォーマンスにより、前年同期と比べ、4.8%増となりました。総販売数量における GFB 販売数量が占める割合は、前年同期と比べ 3.3 パーセントポイント増の 64.8%となりました。RRP については、本年 3 月上旬から Ploom ブランドにて加熱式たばこの販売をオンライン中心に開始したモスクワを筆頭に、プレゼンスの拡大が続いています。この展開により、Logic Compact が E-vapor カテゴリーを牽引しているモスクワにおいて、RRP のポートフォリオを拡大しました。

● 自社たばこ製品売上収益及び調整後営業利益

自社たばこ製品売上収益及び調整後営業利益は、単価上昇効果及び数量効果により、それぞれ前年同期比 8.8%増、16.7%増となりました。

ドルベースの自社たばこ製品売上収益は、イラン・フィリピン・ロシア・トルコ・英国をはじめとした市場での単価上昇効果+305 百万ドルに加えて、数量効果+62 百万ドルにより 10.2%の増加となりました。ネガティブな為替影響▲102 百万ドルを除いた場合は、14.1%の増加となっています。調整後営業利益については、単価上昇効果+299 百万ドル及び数量効果+49 百万ドルにより、18.1%の増加となりました。EUR、IRR、TRY を主因としたネガティブな為替影響▲91 百万ドルを除いた場合は、29.4%の増加となっています。

海外たばこ事業
クラスター別 四半期実績

South and West Europe

(億本, 百万ドル)	2019年 1-3月	2020年 1-3月	増減率
総販売数量	166	177	+6.7%
GFB 販売数量	136	147	+7.8%
自社たばこ製品売上収益	512	546	+6.7% (+9.3%)*

*為替一定ドルベース 対前年同期増減率

• 販売数量及び市場シェア¹

総販売数量は、主に新型コロナウイルス感染拡大に伴う各市場のロックダウンに備えるため、流通での在庫積み増しを主因にポジティブに作用した流通在庫調整により、6.7%の増加となりました。この影響を除いても、ベルギー・フランス・ギリシャ・イタリア・ルクセンブルク・オランダ・スペイン・スイスにおける市場シェアの伸長により、総販売数量は安定的に推移しました。GFB 販売数量は、ウinstonとキャメルが牽引し、前年同期と比べ7.8%増加となりました。

• 自社たばこ製品売上収益

自社たばこ製品売上収益は、ネガティブな為替影響▲13百万ドルがあったものの、数量効果+41百万ドルと単価上昇効果+7百万ドルにより、前年同期と比べ6.7%増加となりました。為替影響を除いた場合は、9.3%の増加となっています。

• 市場別実績¹

フランスにおける総販売数量、GFB 販売数量及び Fine cut の販売数量は、それぞれ 5.7%、5.8%、11.8%の増加となりました。総販売数量は、新型コロナウイルス感染拡大によるロックダウンにより、ポジティブに作用した流通在庫調整影響を除くと、総需要減少を背景に 3.9%減となっています。市場シェアはウinstonとキャメルが牽引し、前年同期と比べ 1.1 パーセントポイント増の 24.4%となりました。為替一定自社たばこ製品売上収益は、数量効果及び単価上昇効果により成長しました。

イタリアにおける総販売数量、GFB 販売数量及び Fine cut の販売数量は、それぞれ 9.8%、12.2%、28.7%の増加となりました。総販売数量は、新型コロナウイルス感染拡大によるロックダウンにより、ポジティブに作用した流通在庫調整影響を除くと、総需要減少を背景に 0.6%減となっています。市場シェアは 0.6 パーセントポイント増の 24.7%となっています。為替一定自社たばこ製品売上収益は、数量効果により成長しました。

スペインにおける総販売数量、GFB 販売数量及び Fine cut の販売数量は、それぞれ 14.3%、14.6%、16.9%の増加となりました。総販売数量は、新型コロナウイルス感染拡大によるロックダウンにより、ポジティブに作用した流通在庫調整影響を除くと、総需要増加を背景に 5.2%増となっています。市場シェアはキャメルの伸長により、0.8 パーセントポイント増の 25.8%増となっています。為替一定自社たばこ製品売上収益は、主に数量効果により成長しました。

North and Central Europe

(億本, 百万ドル)	2019年 1-3月	2020年 1-3月	増減率
総販売数量	129	142	+9.9%
GFB 販売数量	63	74	+17.1%
自社たばこ製品売上収益	482	547	+13.6% (+16.8%)*

*為替一定ドルベース 対前年同期増減率

- 販売数量及び市場シェア¹**
 総販売数量は、ドイツ・ポーランド・英国等における販売数量の増加により、前年同期比で 9.9%増となりました。GFB 販売数量は、ウinstonの力強い成長により、前年同期比 17.1%増となりました。市場シェアはチェコ・ドイツ・ハンガリー・ポーランド・英国で伸長しました。
- 自社たばこ製品売上収益**
 自社たばこ製品売上収益は、ネガティブな為替影響▲15 百万ドルがあったものの、ポジティブな数量効果+44 百万ドル及び単価上昇効果+37 百万ドルにより、前年同期比 13.6%増となりました。為替影響を除いた場合は 16.8%の増加となりました。
- 市場別実績¹**
ドイツにおける総販売数量、GFB 販売数量及び Fine cut の販売数量は、新型コロナウイルス感染拡大に伴う消費者の買い溜め及び 3 カ月平均市場シェアがウinstonの牽引により 0.3 パーセントポイント増の 8.7%となったことにより、それぞれ 7.8%、23.9%、9.7%の増加となりました。市場シェアは 0.4 パーセントポイント増の 8.5%となっています。為替一定自社たばこ製品売上収益は数量効果及び単価上昇効果により増加しました。

英国における総販売数量及び Fine cut の販売数量は、新型コロナウイルス感染拡大に伴う消費者の買い溜め及び、3 カ月平均市場シェアが 1.5 パーセントポイント増の 44.2%となった力強い成長により、それぞれ 9.9%、19.5%の増加となりました。市場シェアは、紙巻たばこにおけるベンソン・アンド・ヘッジス及び Fine cut におけるスターリングの伸長により、2.1 パーセントポイント増加の 43.9%となりました。為替一定自社たばこ製品売上収益は数量効果及び単価上昇効果により増加しました。

CIS+

(億本, 百万ドル)	2019年 1-3月	2020年 1-3月	増減率
総販売数量	275	268	-2.7%
GFB 販売数量	197	182	-7.6%
自社たばこ製品売上収益	548	637	+16.1% (+17.7%)*

*為替一定ドルベース 対前年同期増減率

- 販売数量及び市場シェア¹**
 総販売数量は、流通在庫調整のポジティブな影響があったものの、ロシア、ウクライナでの総需要の減少により、前年同期比 2.7%減少となりました。流通在庫調整の影響を除くと、総販売数量は前年同期比 5.9%の減

少となっています。GFB 販売数量は、総需要の減少により、前年同期比 7.6%の減少となりました。市場シェアはカザフスタン・ルーマニア・セルビアで伸長しました。

- **自社たばこ製品売上収益**

自社たばこ製品売上収益は、単価上昇効果+102 百万ドルが、ネガティブな数量効果▲4 百万ドル、ネガティブな為替影響▲9 百万ドルを上回り、16.1%増加しました。ネガティブな為替影響を除くと、17.7%の増加となっています。

- **市場別実績¹**

ルーマニアにおける総販売数量及び GFB 販売数量は、新型コロナウイルス感染拡大に伴う消費者の買い溜めにより、前年同期比でそれぞれ 16.8%、14.1%の増加となりました。市場シェアは、前年同期と比べて 0.9 パーセントポイント増加し 28.3%に達しました。為替一定自社たばこ製品売上収益は、ポジティブな数量効果と単価上昇効果の発現により増加しました。

ロシアにおける総販売数量は、流通在庫調整がポジティブに作用したものの、前年同期比 5.7%減少しました。流通在庫調整の影響を除いた場合、総販売数量は、不法取引の増加及び RRP 市場の拡大影響により総需要²が 4.9%減少したと推定される中、前年同期比 10.9%の減少となりました。当四半期の競合との不利な価格差を主因とし、3 カ月平均市場シェアは、0.8 パーセントポイント減少し、38.3%となりました。同様の要因により、GFB 市場シェアは 0.3 パーセントポイント増の 25.1%となったものの、GFB 販売数量は 16.0%減少しました。市場シェアは、前年同期と比べて 0.2 パーセントポイント減少し、39.0%となりました。為替一定自社たばこ製品売上収益は、単価上昇効果により増加しました。

Rest-of-the-World

(億本, 百万ドル)	2019 年 1-3 月	2020 年 1-3 月	増減率
総販売数量	478	455	-4.7%
GFB 販売数量	248	273	+9.9%
自社たばこ製品売上収益	1,060	1,136	+7.2% (+13.3%)*

*為替一定ドルベース 対前年同期増減率

- **販売数量及び市場シェア¹**

総販売数量は、バングラデシュ、免税販売市場、フィリピン、サウジアラビア、トルコにおける販売数量の減少により、前年同期比で 4.7%減少しました。流通在庫調整の影響を除いた場合、総販売数量は 4.6%の減少となりました。GFB 販売数量は、ウinston と LD が牽引し、前年同期比 9.9%増加しました。市場シェアは、アルジェリア・ブラジル・カンボジア・カナダ・イラン・マレーシア・メキシコ・モロッコ・サウジアラビア・シンガポール・台湾・トルコ・米国といった多くの市場で伸長しました。

- **自社たばこ製品売上収益**

自社たばこ製品売上収益は、数量差影響▲19 百万ドル、ネガティブな為替影響▲65 百万ドルはあったものの、単価上昇効果+159 百万ドルにより、前年同期比 7.2%の増加となりました。為替影響を除いた場合は前年同期比 13.3%の増加となりました。

- **市場別実績¹**

イランにおける総販売数量は、前年同期比 14.1%の増加となりました。ネガティブに作用した流通在庫調整の影響を除いた場合、新型コロナウイルス感染拡大に伴う消費者の買い溜めにより、前年同期比 14.9%の増加となりました。GFB 販売数量は、ウinston が牽引し、前年同期比 19.3%の増加となりました。市場シェアは前年同期と比べ 3.2 パーセントポイント増加し、60.2%となりました。為替一定自社たばこ製品売上収益は、ポジティブな数量効果と単価上昇効果により増加しました。

台湾における総販売数量は、前年同期比 2.5%の増加となりました。新型コロナウイルス感染拡大に伴う消費者の買い溜めにより、ポジティブに作用した流通在庫調整の影響を除くと、総販売数量は 2.4%増加しました。GFB 販売数量は、ウinstonと LD が牽引し、1.8%増加しました。市場シェアは、前年同期と比べ 2.7パーセントポイント増加し、45.8%となりました。為替一定自社たばこ製品売上収益は、ダウントレーディングによるネガティブな単価差影響をポジティブな数量効果が相殺し、増加しました。

トルコにおける総販売数量及び GFB 販売数量は、前年同期比でそれぞれ 11.8%、8.7%の減少となりました。流通在庫調整の影響を除くと、総販売数量は、総需要の減少を背景に 17.0%の減少となりました。市場シェアは主にウinstonの伸長により、前年同期と比べ 0.5パーセントポイント増加し 27.5%となりました。為替一定自社たばこ製品売上収益は、単価上昇効果がネガティブな数量影響を上回り、増加しました。

¹ 出典：IRI、Logista、Nielsen 及び JTI 内部データ。特に言及がない限り 2020 年 3 月時点の 12 カ月移動平均及び 3 カ月平均ベースで、対象は紙巻たばこ及び Fine cut。ブラジル・ハンガリー・アイルランド・ロシア・スペイン・スイスに関するデータは 2020 年 2 月時点の 12 カ月移動平均及び 2 カ月平均ベース。12 カ月移動平均及び 3 カ月平均市場シェアの増減算出の比較対象は前年同期末時点の 12 カ月移動平均及び 3 カ月平均ベース。

² 出典：JTI 内部データ。紙巻たばこを対象とする 2020 年 1-3 月期の対前年同一期間比較。

国内たばこ事業

(億本, 億円)	2019年 1-3月	2020年 1-3月	増減率
紙巻総需要	294	288	-2.2%
紙巻販売数量	179	172	-4.2%
自社たばこ製品売上収益	1,335	1,258	-5.7%
調整後営業利益	510	432	-15.3%

2020年1-3月

● 紙巻販売数量

紙巻総需要³は、閏年による営業日数の増加等はあるものの、RRP 市場の拡大、趨勢減及び定価改定影響により、前年同期比 2.2%減となりました。なお、定価改定影響は、2019年10月の消費税増税時の値上げ幅が2018年10月のたばこ税増税時よりも小さいことから、前年同期と比べて限定的となっております。

当社の紙巻販売数量は、紙巻総需要及び紙巻シェア³の減少により、前年同期比 4.2%減となりました。紙巻シェアについては、低価格帯での競争継続により、前年同期比 1.2 パーセントポイント減の 59.7%となりましたが、前四半期と比べた場合は安定的に推移しております。

● RRP 販売実績

国内たばこ市場に占める RRP の市場占有率³は約 24% (出荷ベース) と推計しております。当社の RRP の販売数量は紙巻たばこ換算ベースで 9 億本となり、実需ベースの当社の RRP カテゴリー内シェア³は約 10%と推計しています。

● 自社たばこ製品売上収益及び調整後営業利益

自社たばこ製品売上収益は、紙巻販売数量の減少影響 (▲48 億円)、2019年10月の消費税増税時に一部銘柄で価格を据え置いたことに起因する紙巻におけるネガティブな単価差影響 (▲14 億円) に加え、免税販売の減少影響により前年同期比 5.7%減となりました。なお、RRP 関連売上収益は前年同期比 6 億円増の 130 億円となっております。調整後営業利益は、紙巻販売数量の減少影響 (▲39 億円)、紙巻におけるネガティブな単価差影響 (▲14 億円)、RRP 及びリトルシガーの販促強化により、前年同期比 15.3%減となりました。

³ 出典：JT 推計。当社公表の紙巻総需要及び紙巻シェアには、紙巻たばこに加え、たばこ事業法上「葉巻たばこ」に分類されるリトルシガーが含まれておりません。

医薬事業

(億円)	2019年 1-3月	2020年 1-3月	増減率
売上収益	228	207	-9.0%
調整後営業利益	45	66	+47.1%

2020年 1-3月

• 売上収益及び調整後営業利益

売上収益は、当社子会社である鳥居薬品において販売が好調に推移したものの、海外ロイヤリティ収入の減少を主因に、前年同期比 9.0%減となりました。

調整後営業利益は、海外ロイヤリティ収入の減少はあるものの、試験終了等に伴う研究開発費の減少及び鳥居薬品の増収増益により、前年同期と比べて 21 億円の増益となりました。

加工食品事業

(億円)	2019年 1-3月	2020年 1-3月	増減率
売上収益	360	367	+2.1%
調整後営業利益	3	4	+46.8%

2020年 1-3月

• 売上収益及び調整後営業利益

売上収益は、冷食常温・調味料事業における外食向け商品及びベーカリー事業での販売減少があるものの、冷食常温事業における家庭用商品の需要増に伴い販売が伸長したことにより、前年同期比 2.1%の増収となりました。調整後営業利益は、売上収益の増加により、前年同期と比べて 1 億円の増益となりました。

データシート

2020年 Q1実績

1. 全社業績ハイライト

(単位：億円)

	2019Q1	2020Q1	増減	増減率
売上収益	5,054	5,196	+142	+2.8%
営業利益	1,826	1,290	-536	-29.4%
調整後営業利益	1,388	1,469	+81	+5.8%
税引前利益	1,727	1,151	-576	-33.4%
四半期利益	1,337	869	-468	-35.0%
親会社の所有者に帰属する四半期利益	1,208	864	-345	-28.5%
基本的EPS* (円)	67.66	48.69	-18.97	-28.0%

*親会社の所有者に帰属する四半期利益を基に算定

(参考) 全社

(単位：億円)

	2019Q1	2020Q1	増減	増減率
為替一定調整後営業利益	1,388	1,582	+194	+14.0%

2. 事業セグメント別実績

(単位：億円)

	2019Q1	2020Q1	増減	増減率
売上収益	5,054	5,196	+142	+2.8%
国内たばこ事業	1,447	1,351	-96	-6.6%
自社たばこ製品売上収益	1,335	1,258	-76	-5.7%
海外たばこ事業	3,004	3,262	+258	+8.6%
自社たばこ製品売上収益	2,868	3,120	+253	+8.8%
医薬事業	228	207	-21	-9.0%
加工食品事業	360	367	+8	+2.1%
その他	16	9	-7	-46.1%
全社 営業利益	1,826	1,290	-536	-29.4%
国内たばこ事業	470	392	-78	-16.6%
海外たばこ事業	755	897	+142	+18.8%
医薬事業	650	66	-584	-89.9%
加工食品事業	1	4	+3	+239.0%
その他/消去	-50	-69	-19	-
調整合計	438	-179	-617	-
国内たばこ事業	-40	-41	-0	-
海外たばこ事業	-137	-144	-7	-
医薬事業	605	-0	-605	-
加工食品事業	-2	-0	+2	-
その他/消去	12	5	-7	-
全社 調整後営業利益	1,388	1,469	+81	+5.8%
国内たばこ事業	510	432	-78	-15.3%
海外たばこ事業	892	1,041	+149	+16.7%
医薬事業	45	66	+21	+47.1%
加工食品事業	3	4	+1	+46.8%
その他/消去	-62	-74	-12	-

(参考) 海外たばこ事業 ドルベース

(単位：百万ドル)

	2019Q1	2020Q1	増減	増減率
自社たばこ製品売上収益	2,602	2,866	+265	+10.2%
為替一定自社たばこ製品売上収益	2,602	2,969	+367	+14.1%
調整後営業利益	809	956	+147	+18.1%
為替一定調整後営業利益	809	1,047	+238	+29.4%

2020年 Q1実績

3. 減価償却費及び償却費*

(単位：億円)

	2019Q1	2020Q1	増減
全社 減価償却費及び償却費	425	417	-8
国内たばこ事業	138	135	-3
海外たばこ事業	251	247	-4
医薬事業	14	13	-1
加工食品事業	17	17	-0
その他/消去	6	5	-0

*リース取引に係る減価償却費を除く

4. 連結財政状態データ

(単位：億円)

	2019年12月末	2020年3月末	増減
資産合計	55,531	52,020	-3,511
資本合計	27,436	25,018	-2,418
親会社の所有者に帰属する持分	26,627	24,227	-2,400
1株当たり親会社所有者帰属持分 (円)	1,501.12	1,365.69	-135.43

5. 手元流動性及び有利子負債

(単位：億円)

	2019年12月末	2020年3月末	増減
手元流動性	3,758	3,172	-586
有利子負債	9,745	10,736	+991

6. 連結キャッシュフロー・データ

(単位：億円)

	2019Q1	2020Q1	増減
営業キャッシュフロー	1,212	-19	-1,231
投資キャッシュフロー	-394	-75	+319
財務キャッシュフロー	-1,014	-311	+703
現金及び現金同等物の期首残高	2,821	3,572	+751
現金及び現金同等物に係る換算差額等	-9	-155	-146
現金及び現金同等物の期末残高	2,615	3,011	+396
FCF	820	-113	-933

7. 資本的支出

(単位：億円)

	2019Q1	2020Q1	増減
資本的支出	287	266	-21
国内たばこ事業	106	48	-59
海外たばこ事業	112	109	-2
医薬事業	40	75	+36
加工食品事業	13	22	+8
その他/消去	16	12	-4

8. 為替

	2019Q1	2020Q1	増減	増減率
USドル/円	110.22	108.86	-1.36	1.2%高
USドル/RUB	66.12	66.33	+0.21	0.3%安
USドル/GBP	0.77	0.78	+0.01	1.7%安
USドル/EUR	0.88	0.91	+0.03	2.9%安
USドル/CHF	1.00	0.97	-0.03	3.0%高
USドル/TWD	30.82	30.11	-0.71	2.4%高
USドル/TRY	5.36	6.10	+0.74	12.1%安
USドル/IRR	88,454	128,673	+40,219	31.3%安

上記表のUSD/IRRはEUR/IRR換算より算出

2020年度見込 (2020/2/6公表)

1. 全社業績ハイライト

(単位：億円)

	2019年度 実績	2020年度 見込	増減	増減率
売上収益	21,756	21,800	+44	+0.2%
営業利益	5,024	4,710	-314	-6.2%
調整後営業利益	5,159	5,030	-129	-2.5%
親会社の所有者に帰属する当期利益	3,482	3,050	-432	-12.4%

(参考) 全社

(単位：億円)

	2019年度 実績	2020年度 見込	増減	増減率
為替一定調整後営業利益	5,159	5,160	+1	+0.0%

2. EPS・配当金・ROE

(単位：円)

	2019年度 実績	2020年度 見込	増減	増減率
基本的EPS*	195.97	171.95	-24.02	-12.3%
1株当たり配当金	154.00	154.00	-	-
ROE*	13.2%	11.5%	-1.7%pt	

*基本的EPS/ROEは親会社の所有者に帰属する当期利益を基に算定

3. 事業セグメント別売上収益

(単位：億円)

	2019年度 実績	2020年度 見込	増減	増減率
売上収益	21,756	21,800	+44	+0.2%
国内たばこ事業	6,115	5,800	-315	-5.2%
自社たばこ製品売上収益	5,689	5,400	-289	-5.1%
海外たばこ事業	13,109	13,600	+491	+3.7%
自社たばこ製品売上収益	12,530	13,000	+470	+3.7%
医薬事業	885	760	-125	-14.2%
加工食品事業	1,586	1,600	+14	+0.9%
その他	61	30	-31	-51.1%
全社 営業利益	5,024	4,710	-314	-6.2%
国内たばこ事業	1,710	1,540	-170	-9.9%
海外たばこ事業	2,740	3,100	+360	+13.1%
医薬事業	727	100	-627	-86.2%
加工食品事業	55	50	-5	-9.6%
その他/消去	-208	-80	+128	-
全社 調整後営業利益	5,159	5,030	-129	-2.5%
国内たばこ事業	1,872	1,700	-172	-9.2%
海外たばこ事業	3,408	3,610	+202	+5.9%
医薬事業	159	100	-59	-37.3%
加工食品事業	54	50	-4	-8.0%
その他/消去	-334	-430	-96	-

(参考) 海外たばこ事業 ドルベース

(単位：百万ドル)

	2019年度 実績	2020年度 見込	増減	増減率
自社たばこ製品売上収益	11,496	12,000	+504	+4.4%
為替一定自社たばこ製品売上収益	11,496	12,100	+604	+5.3%
調整後営業利益	3,126	3,350	+224	+7.2%
為替一定調整後営業利益	3,126	3,440	+314	+10.0%

2020年度見込 (2020/2/6公表)

4. FCF

(単位：億円)

	2019年度 実績	2020年度 見込	増減
FCF	4,042	3,700	-342

5. 資本的支出

(単位：億円)

	2019年度 実績	2020年度 見込	増減
資本的支出	1,314	1,440	+126
国内たばこ事業	348	290	-58
海外たばこ事業	783	800	+17
医薬事業	70	100	+30
加工食品事業	61	140	+79
その他/消去	52	110	+58

6. 業績予想の主な前提条件

- 国内たばこ事業
 - ・ 2020年の国内たばこ総需要(自社推計)：対前年で3%台半ばの減少(2019年の国内たばこ総需要は推計1,619億本)
 - ・ 2020年の国内紙巻たばこ総需要(自社推計)：対前年で5%台前半の減少(2019年の国内紙巻たばこ総需要は1,251億本)
 - ・ 2020年のJT紙巻販売数量：対前年で約6%の減少(2019年のJT紙巻販売数量は755億本)
 - ・ RRP市場占有率(自社推計,出荷ベース)：2020年は通年で20%台半ば(2019年は通年で約23%)
 - ・ 2020年のJT RRP販売数量：紙巻換算で30億本台後半
- 海外たばこ事業
 - ・ 2020年の総販売数量：対前年で3%程度の減少(2019年の総販売数量は4,458億本)
 - ・ 2020年のGFB販売数量：対前年で1%程度の増加(2019年のGFB販売数量は2,770億本)

<為替前提レート>

	2019年度 実績	2020年度 見込	増減	増減率
USドル/円	109.03	108.00	-1.03	0.9%高
USドル/RUB	64.74	63.00	-1.74	2.8%高
USドル/GBP	0.78	0.78	-0.00	0.5%高
USドル/EUR	0.89	0.89	-0.00	0.4%高
USドル/CHF	0.99	0.97	-0.02	2.5%高
USドル/TWD	30.90	30.00	-0.90	3.0%高
USドル/TRY	5.67	6.20	+0.53	8.6%安
USドル/IRR	104,046	130,000	+25,954	20.0%安

上記表のUSD/IRRはEUR/IRR換算より算出

<為替感応度>

前提レートからの為替変動が利益に与える影響：2020年調整後営業利益3,350百万ドル（算定ベース）

- ・ ドルに対して円以外の全ての通貨が、2020年前提レートに対して同じ方向に1%変動すると、2020年ドルベースAOPが約55百万ドル変動
- ・ 約55百万ドルの変動を構成する主な通貨および内訳
 - RUB 30%弱、GBP 15%程度、TWD 10%強、EUR 10%弱、IRR 5%程度、TRY 5%程度、CHF -10%程度
- ・ 円換算時は円がドルに対して1円変動すると、円ベース調整後営業利益が33.5億円程度変動

たばこ事業データ

海外たばこ事業

1. サマリー

	2019Q1	2020Q1	増減	増減率	
総販売数量	1,047	1,041	-6	-0.6%	億本
GFB販売数量	644	675	+31	+4.8%	億本
自社たばこ製品売上収益	2,868	3,120	+253	+8.8%	億円
調整後営業利益	892	1,041	+149	+16.7%	億円

[参考：ドルベース]

自社たばこ製品売上収益	2,602	2,866	+265	+10.2%	百万ドル
調整後営業利益	809	956	+147	+18.1%	百万ドル

為替一定ベース

自社たばこ製品売上収益	2,602	2,969	+367	+14.1%	百万ドル
調整後営業利益	809	1,047	+238	+29.4%	百万ドル

・クラスター別実績 (前年同期比)

(億本/百万ドル)

財務報告ベース

2020Q1	総販売数量		GFB販売数量		自社たばこ製品売上収益	
SWE	177	+6.7%	147	+7.8%	546	+6.7%
NCE	142	+9.9%	74	+17.1%	547	+13.6%
CIS+	268	-2.7%	182	-7.6%	637	+16.1%
RoW	455	-4.7%	273	+9.9%	1,136	+7.2%
Total	1,041		675		2,866	

2. クラスター/市場別 総販売数量 (前年同期比)

2020	Q1	Q2	Q3	Q4	累計
SWE	+6.7%				+6.7%
France	+5.7%				+5.7%
Italy	+9.8%				+9.8%
Spain	+14.3%				+14.3%
NCE	+9.9%				+9.9%
Germany	+7.8%				+7.8%
UK	+9.9%				+9.9%
CIS+	-2.7%				-2.7%
Romania	+16.8%				+16.8%
Russia	-5.7%				-5.7%
RoW	-4.7%				-4.7%
Iran	+14.1%				+14.1%
Taiwan	+2.5%				+2.5%
Turkey	-11.8%				-11.8%
Total	-0.6%				-0.6%

3. ブランド別 GFB販売数量 (前年同期比)

(億本)

2020	Q1	Q2	Q3	Q4	累計
Winston	377				377
	+5.7%				+5.7%
Camel	144				144
	+3.4%				+3.4%
MEVIUS	39				39
	-1.0%				-1.0%
LD	115				115
	+5.9%				+5.9%

たばこ事業データ

海外たばこ事業

4. クラスター/市場別 GFB販売数量 (前年同期比)

2020	Q1	Q2	Q3	Q4	累計
SWE	+7.8%				+7.8%
France	+5.8%				+5.8%
Italy	+12.2%				+12.2%
Spain	+14.6%				+14.6%
NCE	+17.1%				+17.1%
Germany	+23.9%				+23.9%
UK	-23.9%				-23.9%
CIS+	-7.6%				-7.6%
Romania	+14.1%				+14.1%
Russia	-16.0%				-16.0%
RoW	+9.9%				+9.9%
Iran	+19.3%				+19.3%
Taiwan	+1.8%				+1.8%
Turkey	-8.7%				-8.7%
Total	+4.8%				+4.8%

5. 主要市場別シェア

	12ヶ月移動平均			3ヶ月平均				
	2019 3月	2020 3月	増減	2019 Q1	2019 Q2	2019 Q3	2019 Q4	2020 Q1
France	23.3%	24.4%	+1.1%pt	23.9%	24.2%	24.1%	24.4%	25.1%
Italy	24.0%	24.7%	+0.6%pt	24.3%	24.4%	24.6%	24.6%	25.1%
Russia*	36.4%**	39.0%**	+2.5%pt	39.1%	39.7%	39.1%	38.4%	38.3%**
Spain	25.0%**	25.8%**	+0.8%pt	25.3%	25.5%	25.7%	26.1%	26.2%**
Taiwan	43.2%	45.8%	+2.7%pt	44.6%	45.0%	45.4%	46.1%	46.8%
Turkey	27.0%	27.5%	+0.5%pt	26.9%	29.3%	26.9%	26.5%	26.9%
UK	41.8%	43.9%	+2.1%pt	42.7%	43.4%	43.7%	44.3%	44.2%

Source: IRI, Nielsen, Logista / 出典元の過去データ修正も反映しています。

* 12カ月移動平均シェア、3ヶ月平均シェアのいずれも2018年8月からDonskoy Tabakが含まれています。

** 2020年2月時点の、12カ月移動平均および2カ月平均を採用しております。

6. クラスター別 為替一定自社たばこ製品売上収益 (前年同期比)

(百万ドル)

2020	Q1	Q2	Q3	Q4	累計
SWE	559				559
	+9.3%				+9.3%
NCE	563				563
	+16.8%				+16.8%
CIS+	646				646
	+17.7%				+17.7%
RoW	1,201				1,201
	+13.3%				+13.3%
Total	2,969				2,969
	+14.1%				+14.1%

たばこ事業データ

海外たばこ事業

7. 要因別 自社たばこ製品売上収益実績

・ドルベース	(百万ドル)				
	Q1	Q2	Q3	Q4	累計
2019	2,602				2,602
数量差	+62				+62
価格差/Mix	+305				+305
2020 為替一定	2,969				2,969
FX	-102				-102
2020	2,866				2,866

・円ベース	(億円)				
	Q1	Q2	Q3	Q4	累計
2019	2,868				2,868
Operations	+404				+404
現地通貨 vs. 米ドル	-113				-113
円 vs. 米ドル	-39				-39
2020	3,120				3,120

8. 要因別 調整後営業利益実績

・ドルベース	(百万ドル)				
	Q1	Q2	Q3	Q4	累計
2019	809				809
数量差	+49				+49
価格差/Mix	+299				+299
その他	-110				-110
2020 為替一定	1,047				1,047
FX	-91				-91
2020	956				956

・円ベース	(億円)				
	Q1	Q2	Q3	Q4	累計
2019	892				892
Operations	+262				+262
現地通貨 vs. 米ドル	-100				-100
円 vs. 米ドル	-13				-13
2020	1,041				1,041

9. 実績為替レート (前年同期比)

2020	Q1	Q2	Q3	Q4	累計
USDドル/RUB	66.33 0.3%安				66.33 0.3%安
USDドル/GBP	0.78 1.7%安				0.78 1.7%安
USDドル/EUR	0.91 2.9%安				0.91 2.9%安
USDドル/CHF	0.97 3.0%高				0.97 3.0%高
USDドル/TWD	30.11 2.4%高				30.11 2.4%高
USDドル/TRY	6.10 12.1%安				6.10 12.1%安
USDドル/IRR	128,673 31.3%安				128,673 31.3%安
USDドル/JPY	108.86 1.2%高				108.86 1.2%高

現地通貨 vs USD増減率：(前年同期の現地通貨レート/各期の現地通貨レート) -1で算出

円 vs USD増減率：(各期のレート/前年同期のレート) -1で算出

上記表のUSD/IRRはEUR/IRR換算より算出

たばこ事業データ

国内たばこ事業

1. サマリー

	2019 Q1	2020 Q1	増減	増減率	
紙巻たばこ総需要（自社推計）	294	288	-6	-2.2%	億本
紙巻販売数量	179	172	-7	-4.2%	億本
紙巻販売数量には国内免税販売分・中国事業部分（2019年Q1実績：9億本、2020年Q1実績：6億本）およびRRP販売数量を含んでいません					
自社たばこ製品売上収益	1,335	1,258	-76	-5.7%	億円
調整後営業利益	510	432	-78	-15.3%	億円

2. 紙巻販売数量

	Q1	Q2	Q3	Q4	累計
2019	179	194	201	181	755
2020	172				
前年同期比増減率	-4.2%				

3. 紙巻千本当売上収益

	Q1	Q2	Q3	Q4	累計
2019	6,407	6,391	6,414	6,306	6,380
2020	6,326				

千本当売上収益 = {販売定価代金 - 販売店マージン - 消費税 - たばこ税（国税） - たばこ税（地方税） - たばこ特別税（国税）} / 販売数量 x 1,000

4. 四半期別RRP製品関連計数

	Q1	Q2	Q3	Q4	累計
2020					
RRP販売数量	9				9
RRP関連売上収益	130				130

5. 要因別 財務実績

	Q1	Q2	Q3	Q4	累計
自社たばこ製品売上収益					
2019	1,335				1,335
紙巻数量差	-48				-48
紙巻単価差	-14				-14
RRP/その他	-15				-15
2020	1,258				1,258
調整後営業利益					
2019	510				510
紙巻数量差	-39				-39
紙巻単価差	-14				-14
RRP/その他	-25				-25
2020	432				432

6. 紙巻シェア（出典 自社推計）

	Q1	Q2	Q3	Q4	累計
JT Total					
2019	61.0	61.0	60.1	59.3	60.4
2020	59.7				
MEVIUS					
2019	30.3	30.6	30.3	29.5	30.2
2020	28.9				
Winston					
2019	7.8	7.8	7.4	7.5	7.6
2020	7.3				
Seven Stars					
2019	7.9	7.8	7.8	7.6	7.8
2020	7.5				
Natural					
American Spirit					
2019	1.9	1.9	2.0	2.0	2.0
2020	2.0				

医薬事業 臨床開発品目一覧 (2020年4月30日)

<自社開発品>

開発番号 (一般名)	想定する 適応症/剤形	作用機序		開発段階 (実施地域)	起源	備考
JTZ-951 (enarodustat)	腎性貧血 /経口	HIF-PH阻害	HIF-PHを阻害することにより、 造血刺激ホルモンであるエリスロポエチン の産生を促し、赤血球を増加させる	申請中 (国内) Phase1 (海外)	自社品	・鳥居薬品と共同開発
JTE-052 (delgocitinib)	小児アトピー性皮膚炎 /外用	JAK阻害	免疫活性化シグナルに関与しているJAK を阻害し、過剰な免疫反応を抑制する	Phase3 (国内)	自社品	・鳥居薬品と共同開発
	自己免疫・アレルギー疾患 /経口・外用			Phase1 (国内)		
JTE-051	自己免疫・アレルギー疾患 /経口	ITK阻害	免疫反応に関与しているT細胞を活性化 するシグナルを阻害し、過剰な免疫反応 を抑制する	Phase2 (海外)	自社品	
JTE-451	自己免疫・アレルギー疾患 /経口	RORγ アンタゴニスト	Th17細胞の活性化に中心的な役割を 担うRORγを阻害し、過剰な免疫反応を 抑制する	Phase2 (海外)	自社品	
JTT-251	2型糖尿病 /経口	PDHK阻害	糖代謝に関与するピルビン酸脱水素酵素 (PDH)を活性化し、高血糖を是正する	Phase1 (海外)	自社品	
JTT-662	2型糖尿病 /経口	SGLT1阻害	SGLT1を阻害し、食後高血糖の是正及 び血糖値の正常化を行う	Phase1 (海外)	自社品	
JTE-761	自己免疫・アレルギー疾患 /経口	RORγ アンタゴニスト	Th17細胞の活性化に中心的な役割を担 うRORγを阻害し、過剰な免疫反応を 抑制する	Phase1 (海外)	自社品	
JTT-751 (クエン酸第二鉄水 和物)	鉄欠乏性貧血 /経口	経口鉄剤	鉄が消化管から吸収され、 体内で赤血球中のヘモグロビンの成分と して使用され、鉄欠乏性貧血を改善する	Phase3 (国内)	導入品	・Keryx Biopharmaceuticals 社からの導入 ・鳥居薬品と共同開発 ・効能追加として開発

(注) 開発段階の表記は投薬開始を基準とする

<導出品>

一般名等 (当社開発番号)	導出先	作用機序		備考
trametinib	Novartis社	MEK阻害	細胞増殖シグナル伝達経路に存在するリン酸化酵素MEK の働きを阻害することにより、細胞増殖を抑制する	
抗ICOS抗体	AstraZeneca社	ICOSアンタゴニスト	T細胞の活性化に関与しているICOSの働きを阻害し、免 疫反応を抑制する	
delgocitinib	LEO Pharma社 ロート製薬社	JAK阻害	免疫活性化シグナルに関与しているJAKを阻害し、過剰 な免疫反応を抑制する	
enarodustat	JW Pharmaceutical社 Salubris社	HIF-PH阻害	HIF-PHを阻害することにより、造血刺激ホルモンであ るエリスロポエチンの産生を促し、赤血球を増加させ る	

前回公表時(2020年2月6日)からの変更点

・アトピー性皮膚炎治療薬「コレクテム軟膏0.5%」薬価収載および新発売を公表(2020年4月22日)

用語の定義

用語	定義
調整後営業利益	調整後営業利益 = 営業利益 + 買収に伴い生じた無形資産に係る償却費 + 調整項目 (収益及び費用)* *調整項目 (収益及び費用) = のれんの減損損失 ± リストラクチャリング収益及び費用等
為替一定ベース 調整後営業利益 (全社)	海外たばこ事業における四半期の調整後営業利益を前年同期の現地通貨対ドル、ドル対円の為替レートをを用いて換算/算出することにより、為替影響を除いた指標
Reduced-Risk Products (RRP)	喫煙に伴う健康リスクを低減させる可能性のある製品
GFB (Global Flagship Brands)	Winston、Camel、MEVIUS、LD の 4 ブランド
総販売数量 (海外たばこ事業)	水たばこ/E-Vapor 製品/製造受託を除き、Fine Cut/Cigar/Pipe/Snus/Kretek/加熱式たばこを含む
自社たばこ製品売上収益 (海外たばこ事業)	物流事業/製造受託等を除き、水たばこ/RRP の売上を含む
為替一定ドルベース 自社たばこ製品売上収益/ 調整後営業利益 (海外たばこ事業)	四半期の自社たばこ製品売上収益/調整後営業利益を前年同期の現地通貨対ドルの為替レートをを用いて換算/算出することにより、為替影響を除いた指標
たばこ総需要 (国内たばこ事業)	日本市場全体におけるたばこ製品の本数ベースの市場規模 (自社推計) RRP やリトルシガー等を含む。
紙巻総需要 (国内たばこ事業)	日本市場全体における紙巻たばこの本数ベースの市場規模 (自社推計) リトルシガーを含み、RRP 等を含まない。
紙巻販売数量 (国内たばこ事業)	国内免税販売及び中国事業の販売分を除く、JT 紙巻たばこの販売本数 リトルシガーを含み、RRP 等を含まない。
RRP 販売数量 (国内たばこ事業)	国内免税販売分を除く、JT の RRP の販売本数 (1 パック当たり紙巻たばこ 20 本として換算) デバイス/関連アクセサリ等は含まない
リトルシガー (国内たばこ事業)	たばこ葉を原料とする巻紙を使い、紙巻たばこ同様の形態に巻き上げた製品。 たばこ事業法上「葉巻たばこ」に分類される。
自社たばこ製品売上収益 (国内たばこ事業)	輸入たばこ配送手数料収益等を除き、国内免税販売/中国事業/RRP、リトルシガー関連の売上を含む
RRP 関連売上収益 (国内たばこ事業)	自社たばこ製品売上収益の内訳としての、デバイス/関連アクセサリ等を含む RRP の売上 (国内免税販売分の売上を含む)
手元流動性	手元流動性 = 現預金 + 短期保有の有価証券 + 現先
有利子負債	有利子負債 短期借入金 + コマーシャルペーパー + 長期借入金 + 社債
FCF	FCF = 営業活動 CF + 投資活動 CF ただし以下の項目を除外 <ul style="list-style-type: none"> 営業活動 CF から、リース取引から生じる減価償却費、利息及び配当金の受取額とその税額影響、リース取引以外から生じる利息の支払額とその税額影響 投資活動 CF から、事業投資以外に係る、投資の取得による支出、投資の売却及び償還による収入、定期預金の預入による支出、定期預金の払出による収入、その他

将来に関する記述等についてのご注意

本資料には、当社又は当社グループの業績に関連して将来に関する記述を含んでおります。かかる将来に関する記述は、「考えています」「見込んでいます」「予期しています」「予想しています」「予見しています」「計画」「戦略」「可能性」等の語句や、将来の事業活動、業績、事象又は条件を表す同様の語句を含むことがあります。将来に関する記述は、現在入手できる情報に基づく経営者の判断、予測、期待、計画、認識、評価等を基礎として記載されているに過ぎません。これらの記述ないし事実又は前提（仮定）については、その性質上、客観的に正確であるという保証も将来その通りに実現するという保証もなく、当社としてその実現を約束する趣旨のものでもありません。また、かかる将来に関する記述は、さまざまなリスクや不確実性に晒されており、実際の業績は、将来に関する記述における見込みと大きく異なる場合があります。その内、現時点で想定される主なものとして、以下のような事項を挙げることができます（なお、かかるリスクや要因はこれらの事項に限られるものではありません）。

- (1) 喫煙に関する健康上の懸念の増大
- (2) たばこに関する国内外の法令規則による規制等の導入・変更（増税、たばこ製品の販売、国産葉たばこの買入れ義務、包装、ラベル、マーケティング及び使用に関する政府の規制等）、喫煙に関する民間規制及び政府による調査の影響等
- (3) 国内外の訴訟の動向
- (4) 国内たばこ事業、海外たばこ事業以外へ多角化する当社の能力
- (5) 国際的な事業拡大と、日本国外への投資を成功させる当社の能力
- (6) 市場における他社との競争激化、お客様の嗜好・ニーズの変化及び需要の減少
- (7) 買収やビジネスの多角化に伴う影響
- (8) 国内外の経済状況
- (9) 為替変動及び原材料費の変動
- (10) 自然災害及び不測の事態等

お問い合わせ先

日本たばこ産業株式会社 IR 広報部
東京都港区虎ノ門 2-2-1 JT ビル

投資家の皆様はこちら：jt.ir@jt.com

メディアの皆様はこちら：jt-kouhou@jt.com